

魚沼基幹病院 倫理審査委員会 オプトアウト書式

①研究課題名	脳卒中後 dysarthria 話者における重症度測定に関連する音響指標の探索
②対象者及び対象期間、過去の研究課題名と研究責任者	
<p>20020年4月1日から2025年3月31日に、急性脳卒中で入院し言語療法の処方があった患者</p> <p>1. 選択基準: 以下のすべての条件に該当する患者を対象とする。</p> <p>①脳卒中後に発語障害 (dysarthria) があるもの</p> <p>②45歳以上, 90歳以下のもの</p> <p>③本研究の参加にあたり十分な説明のうえ, 同意が得られたもの</p> <p>2. 除外基準: 以下のいずれかの条件に該当する者は対象としない。</p> <p>①認知症のある患者</p> <p>②発声発語器官の器質的異常のある患者</p> <p>③45歳以下, 90歳以上のもの</p> <p>④研究における同意が得られなかったもの</p>	
③概要	
<p>発語障害 (dysarthria) のある方は呂律が回らないなど話すことが難しくなるため, リハビリテーションにより能力の改善や維持を図ります。脳卒中後の発語障害は25~70%で発症し, 病因や病変部位により発話の症状や重症度は多様です。脳卒中後3ヶ月でも42%の患者で症状が持続し, コミュニケーション障害に伴う社会的孤立やアイデンティティの変化・損失が生じることがあります。そのため, 適切な評価指標の確立が求められています。発語障害の評価は聴覚的な印象で行われることが多いですが, この評価の測定精度を高めるために音響学的解析を用いた定量的な評価が行われています。音響学的解析による評価は進行性神経筋疾患に伴う発語障害に関する研究では多いですが, 脳卒中に関連した発語障害の研究は十分でないのが現状です。今回, 脳卒中後に発語障害のある話者を対象に音響学的解析を行い, 重症度の測定に関連する指標を探索するため本研究を計画しました。</p>	
④申請番号	E2024001501
⑤研究の目的・意義	<p>脳卒中後に発語障害のある話者を対象に音響学的解析を行い, 重症度の測定に関連する指標を探索します。本研究の内容が明らかになると, 発語障害の評価および治療効果判定の精度向上に寄与し, 発語障害のある話者の社会生活への参加促進につながることを期待されます。</p>
⑥研究期間	倫理審査委員会承認日から2026年3月まで

⑦情報の利用目的及び利用方法（他の機関へ提供される場合はその方法を含む。）	電子カルテに保存されている病歴と、言語療法評価時に録音した音声試料を利用します。使用するデータは個人が特定されないように匿名化を行い、研究に使用します。研究の成果は、学会や専門誌などの発表に使用される場合がありますが、名前など個人が特定できるような情報が公表されることはありません。
⑧利用または提供する情報の項目	病歴（年齢、性別、病名、治療内容）、発話課題の音声試料
⑨利用の範囲	魚沼基幹病院および新潟医療福祉大学大学院
⑩試料・情報の管理について責任を有する者	<p>研究責任者：丸山航輝  所属組織：  1. 魚沼基幹病院 リハビリテーション技術科 言語聴覚士  住所：〒949-7302 新潟県南魚沼市浦佐 4132  2. 新潟医療福祉大学大学院 医療福祉学研究科 保健学専攻  言語聴覚分野 修士課程  TEL・FAX:025-777-3220  E-mail: hsm24002@nuhw.ac.jp</p> <p>研究分担者：田村 俊暁  所属組織：新潟医療福祉大学 リハビリテーション学部  言語聴覚学科  住所：新潟県新潟市北区島見町 1398 番地  TEL:025-257-4507 FAX: 025-257-4507  E-mail: toahiaki-tamura@nuhw.ac.jp</p>
⑪お問い合わせ先	魚沼基幹病院 リハビリテーション技術科 丸山航輝 TEL・FAX:025-777-3220 E-mail: hsm24002@nuhw.ac.jp